

ロシア経済の動向

2024年1月26日

内閣府ESRI政策フォーラム「新春景気懇談会」『今年の世界経済』



在ロシア大使館

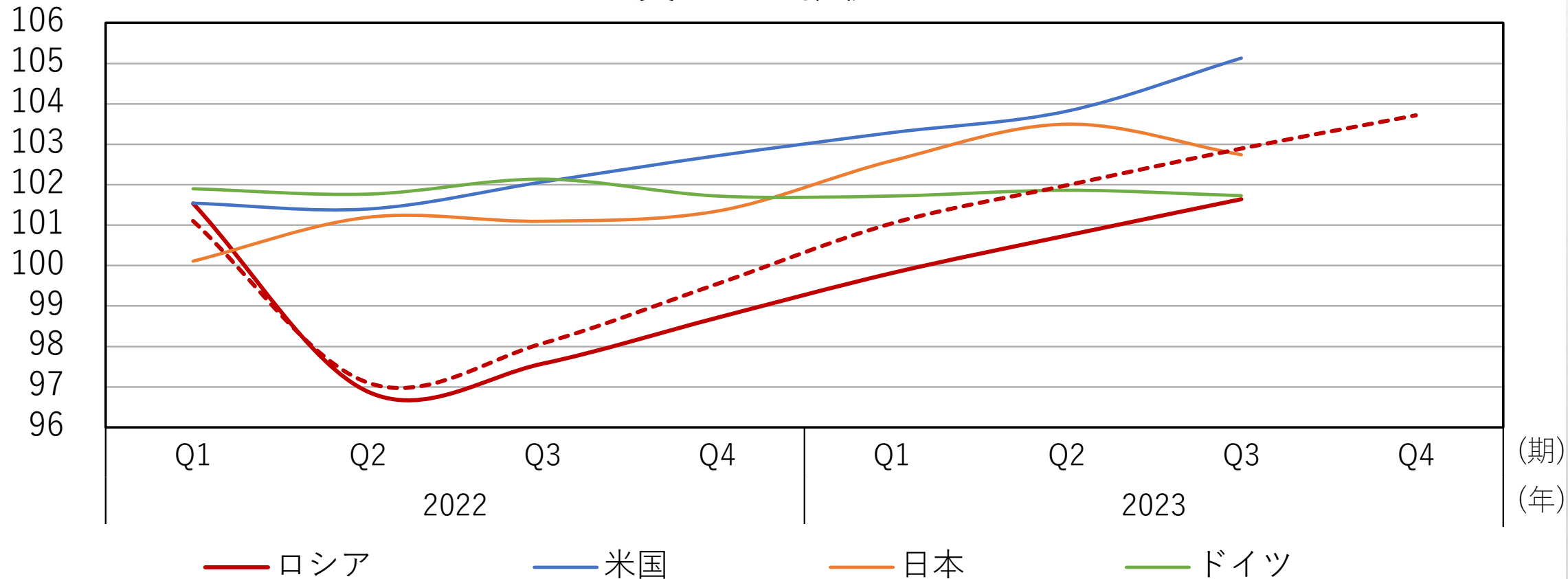
浅岡嵩博

2023年の ロシア 経済の特徴

- 経済危機的な状況を一旦は回避。
- 経済回復のスピードは予想を上回る。
- 構造転換は進展するが、課題も露呈。

(2021年平均 = 100)

実質GDPの推移



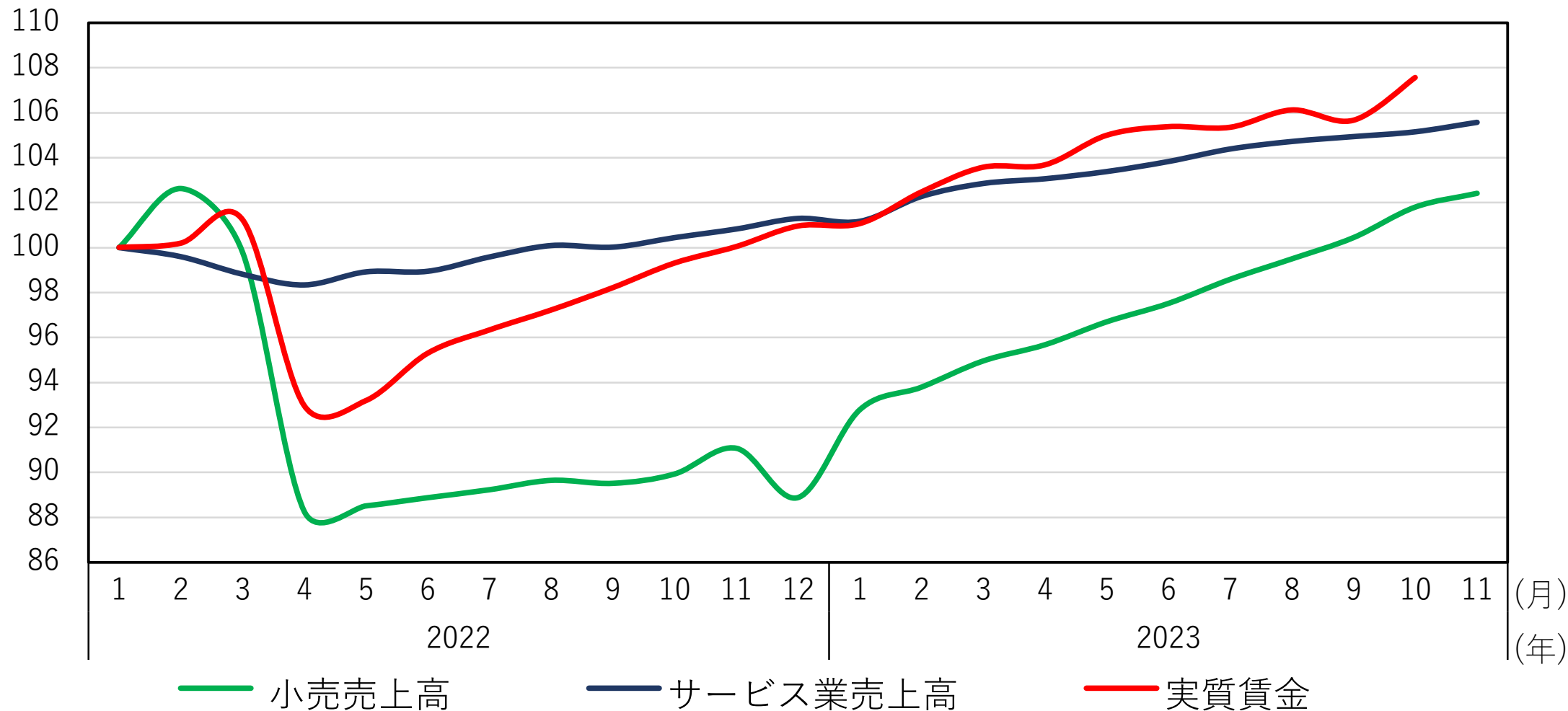
備考：露統計庁及び各国統計より作成。値は季節調整値。点線は、2022年の年次実質GDP成長率の改定値（年率▲1.2%※四半期GDPへは今後反映）及び「2023年GDP成長率3.5%超」との露政府要人の発言を想定した場合のイメージ。

個人消費の 回復

- 持続的な賃金上昇や政策的な下支えにより家計の所得環境が改善。
- 消費者の先行き不安感が後退、将来の経済成長や収入に対して楽観的に。

(2022年1月 = 100)

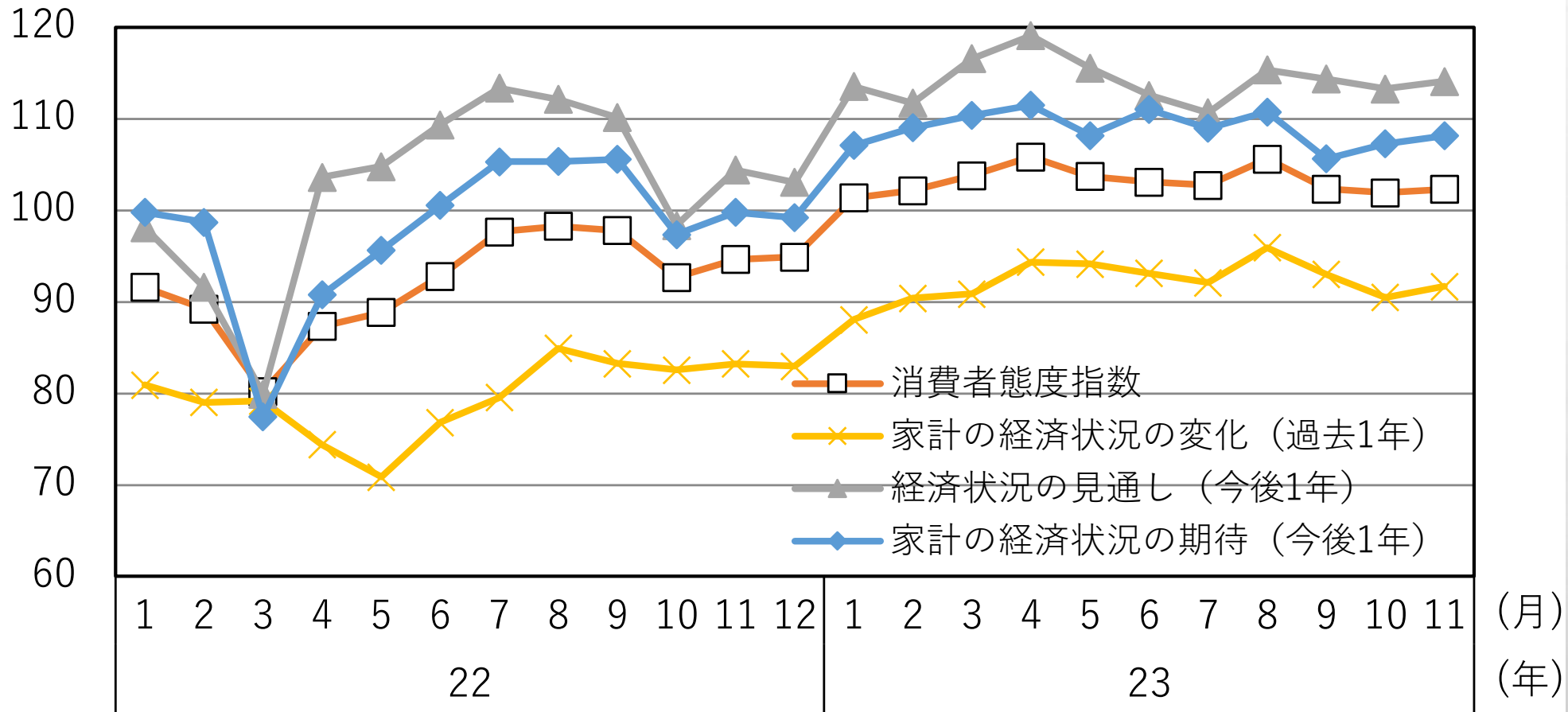
賃金と消費の推移



備考：露統計庁より作成。実質系列に季節調整をかけたうえで指数化。

(ポイント)

消費者態度指数

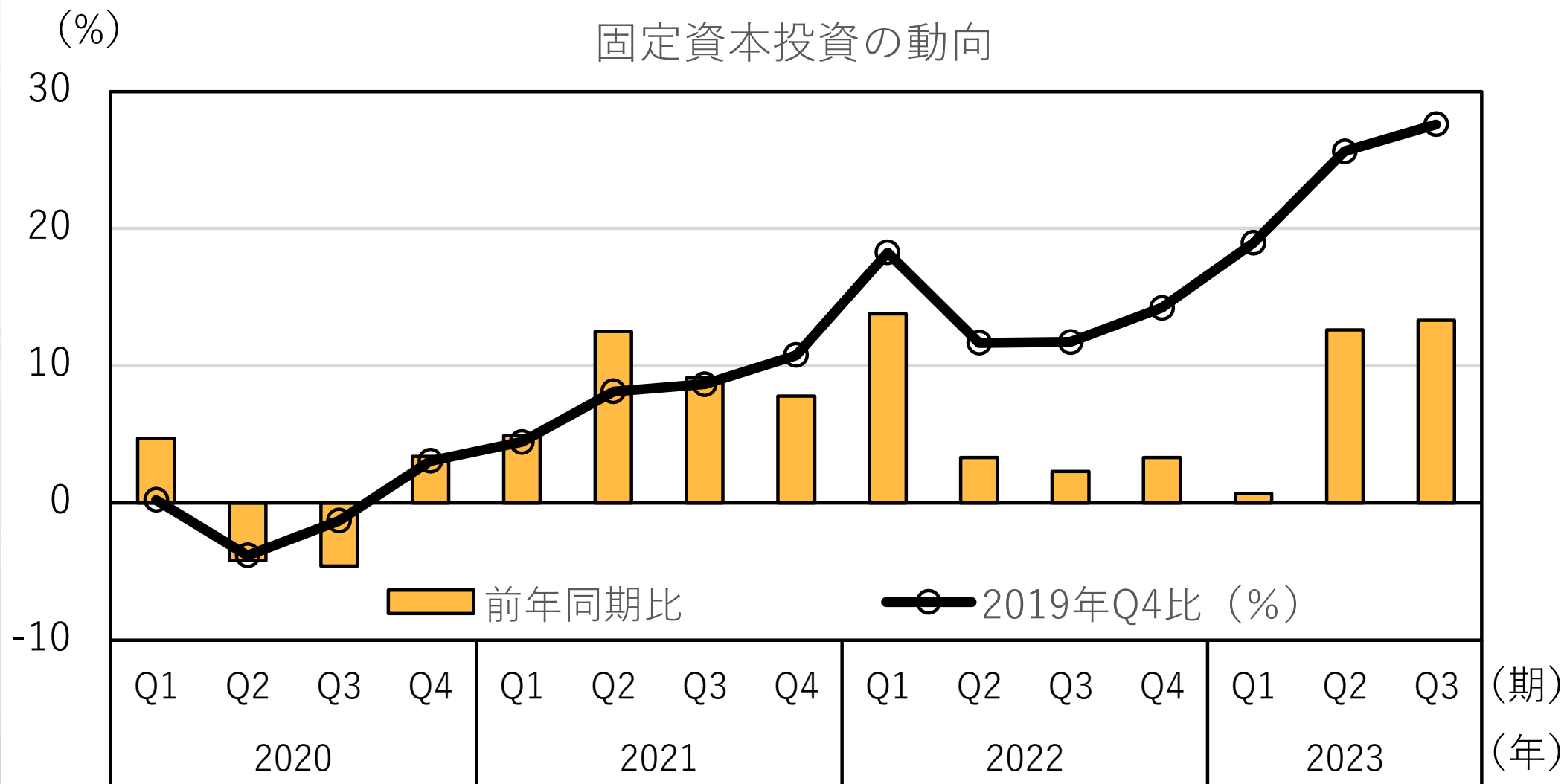


備考：露中央銀行より作成。家計の現状や経済見通しに関する各質問に対する回答バランスから指数を作成。
楽観的回答が悲観的回答を上回ると100以上となる。消費者態度指数は各項目を統合したもの。

投資の拡大

- 経済政策(インフラ投資、特定産業への利子補填、優遇住宅ローン制度等)による後押しによって、侵攻後も投資は底堅く推移。
- 西から東へのロジステックスの転換、撤退した外国企業のニッチを埋める動きや海外からの供給を補うのための輸入代替の動きが新たな投資需要に。

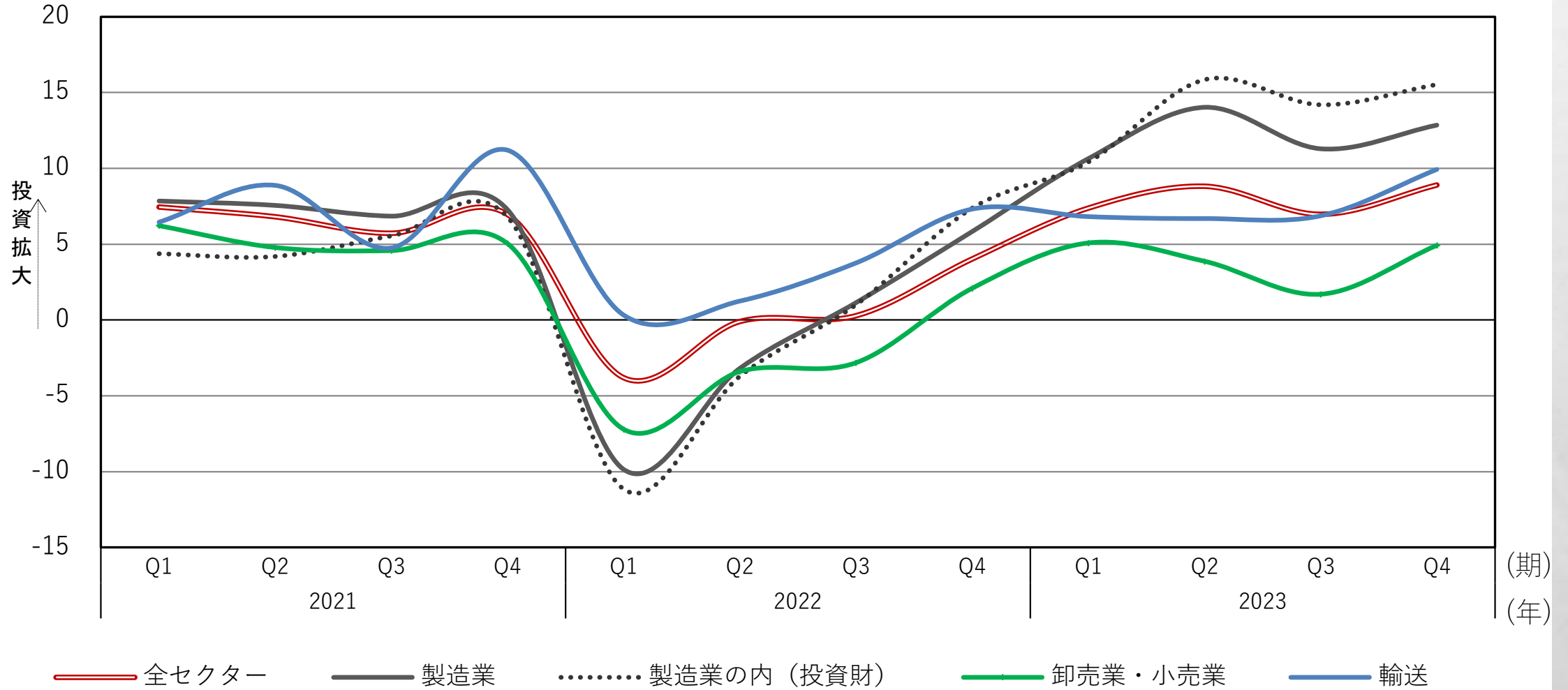
固定資本投資の動向



(備考) 露中央銀行より作成。金額の実質ベース。2019年Q4比は季節調整値。

(回答バランス、%)

企業の投資動向

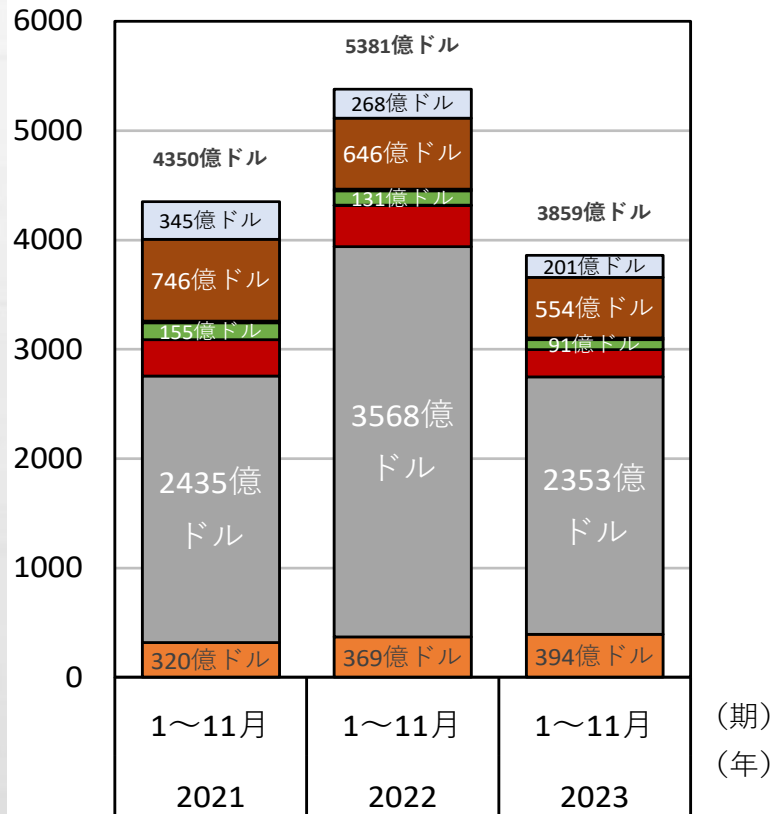


備考：ロシア中央銀行より作成。値は季節調整値。当期の投資の増減について質問に対する回答バランスから

外部環境の 変化

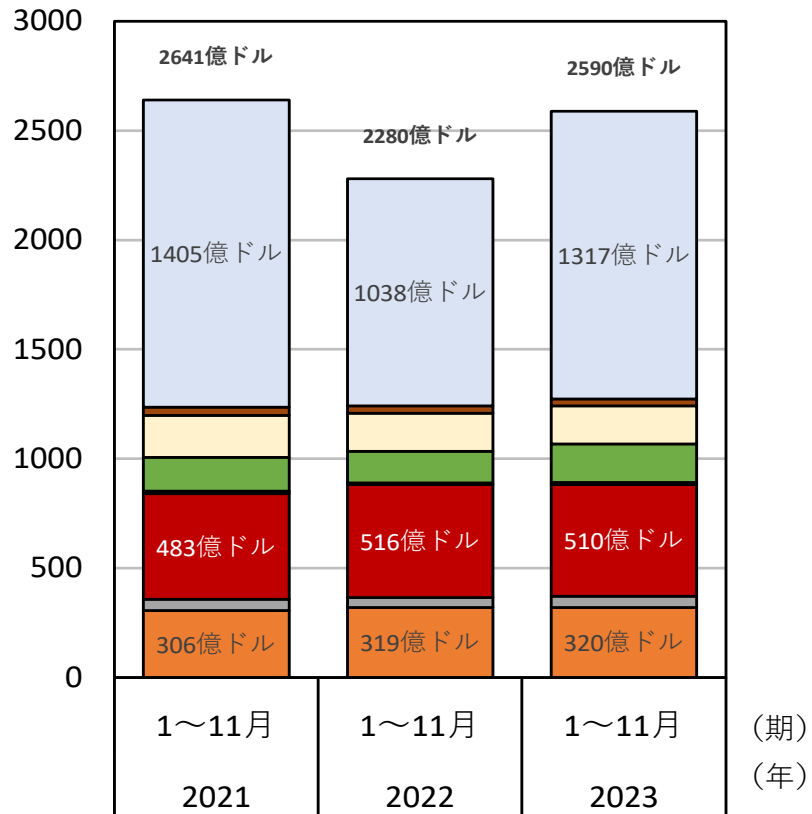
- 資源輸出は、仕向け先のシフトで持ちこたえるも、資源以外の輸出は低調。
- 欧州との貿易関係が減少、中国からの供給と迂回輸出によってに支えられ、生産は維持。
- 個々の企業は、制裁による高コスト化や代替品の品質低下の問題に直面。

(億ドル) 対外貿易の動向：輸出



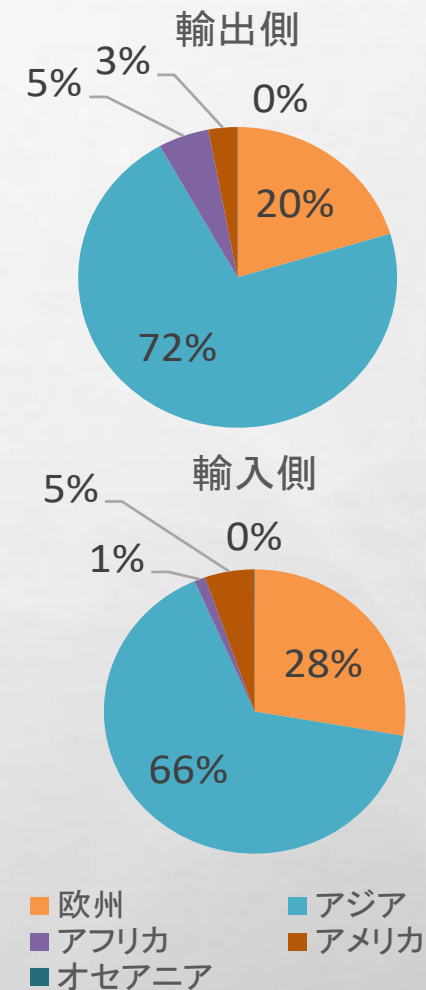
- ① 農産品等
- ② 鉱物 (燃料含む)
- ③ 化学・ゴム
- ④ 皮革等
- ⑤ 木材・紙類
- ⑥ 繊維類
- ⑦ 金属類
- ⑧ 機械類

(億ドル) 輸入



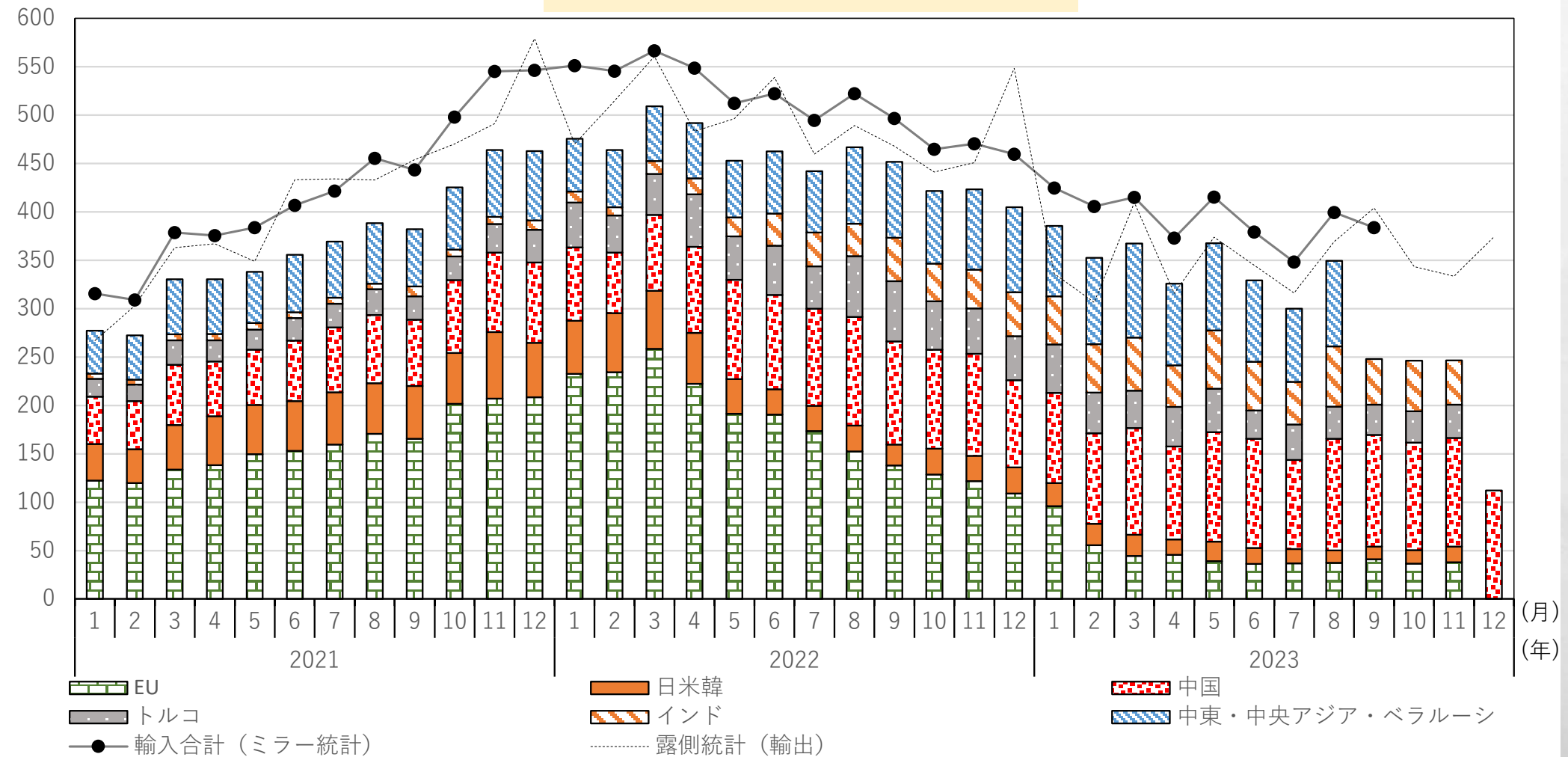
(備考) 露税関庁より作成。HSコード(2桁)の対応：① 01～24、② 25～27、③ 28～40、⑤ 44～49、⑥ 50～67、⑦ 71～83、⑧ 68～70+84～97

貿易相手(地域別)
(2023年1月～11月)



(億ドル)

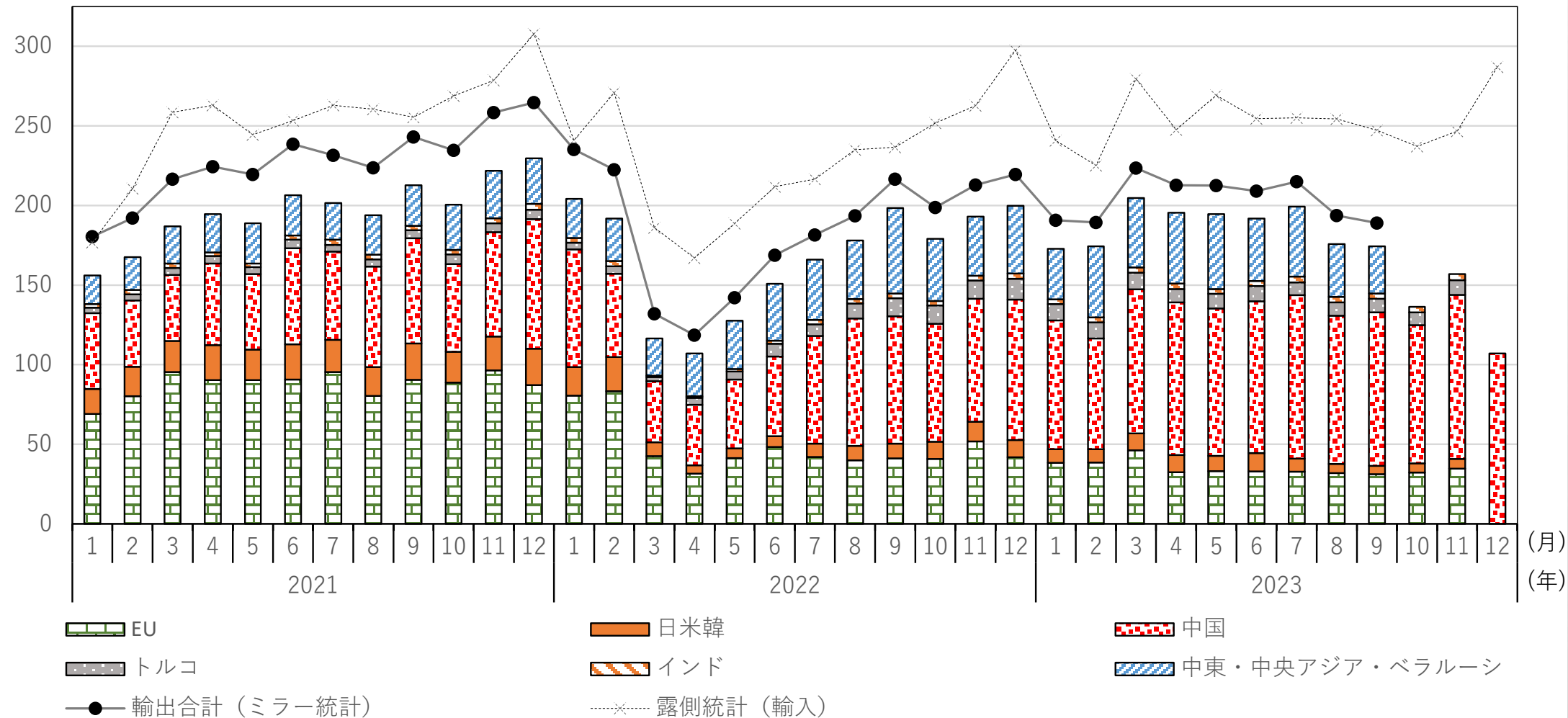
対露輸入額（ロシアの輸出）の推移



(備考) 出典 (直近値) については、以下の通り。ミラー統計、中東・中央アジア・ベラルーシ：IMF"DOT" (2023年9月)、EU日米韓印土中：各国貿易統計 (同11月)、中のみ (同12月)、露側統計：露中央銀行・国際収支統計 (同12月推計値)。

(億ドル)

対露輸出額（ロシアの輸入）の推移



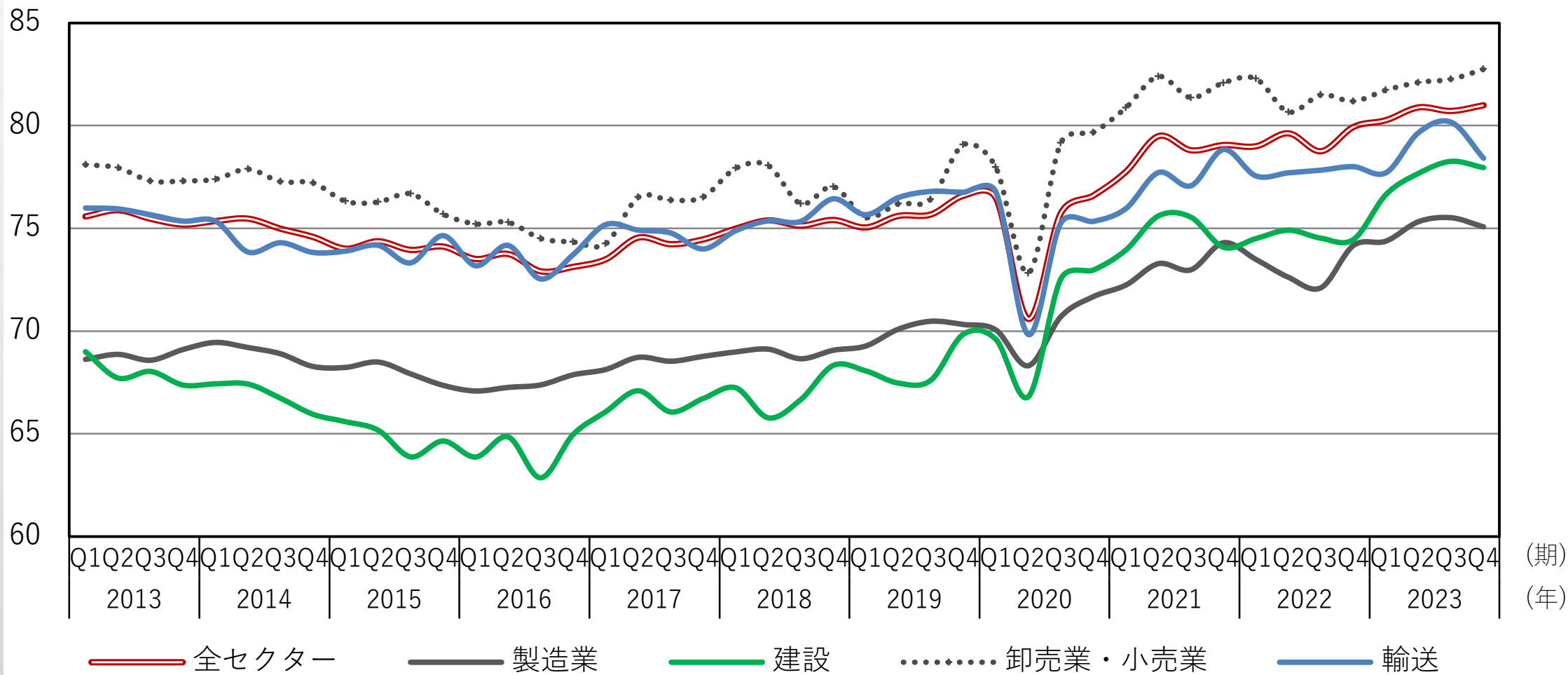
(備考) 出典 (直近値) については、以下の通り。ミラー統計、中東・中央アジア・ベラルーシ：IMF“DOT” (2023年9月)、EU日米韓印土中：各国貿易統計 (同11月)、中のみ (同12月)、露側統計：露中央銀行・国際収支統計 (同12月推計値)。

直面する課題

- 国内需要の回復に対して、企業は生産能力はひっ迫。
- 失業率は過去最低。労働市場はタイト化、コストの上昇要因に。
- 特に製造業や物流分野で人手不足が大幅に悪化。

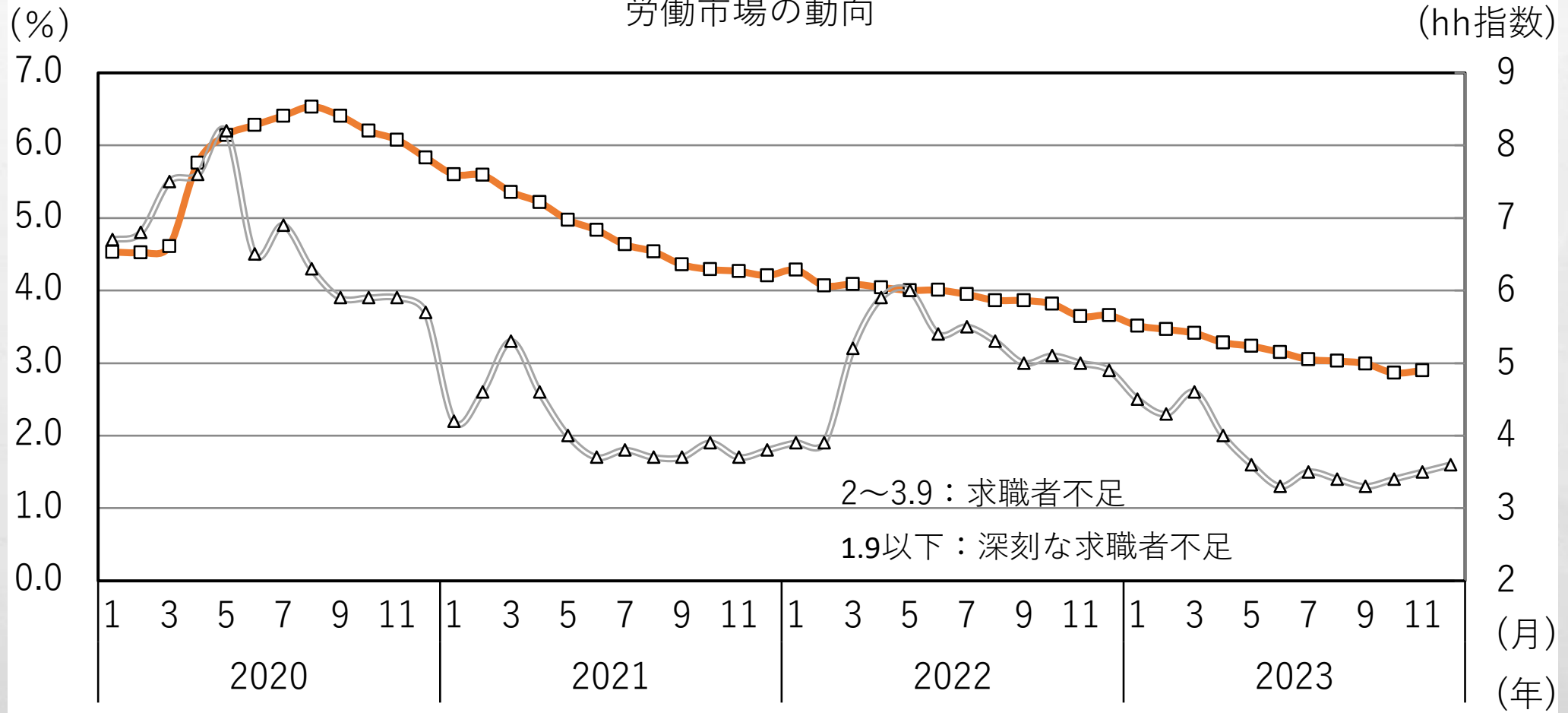
産業別の生産能力稼働率

(%)



備考：ロシア中央銀行より作成。値は季節調整値。報告された当四半期の生産能力稼働率。

労働市場の動向

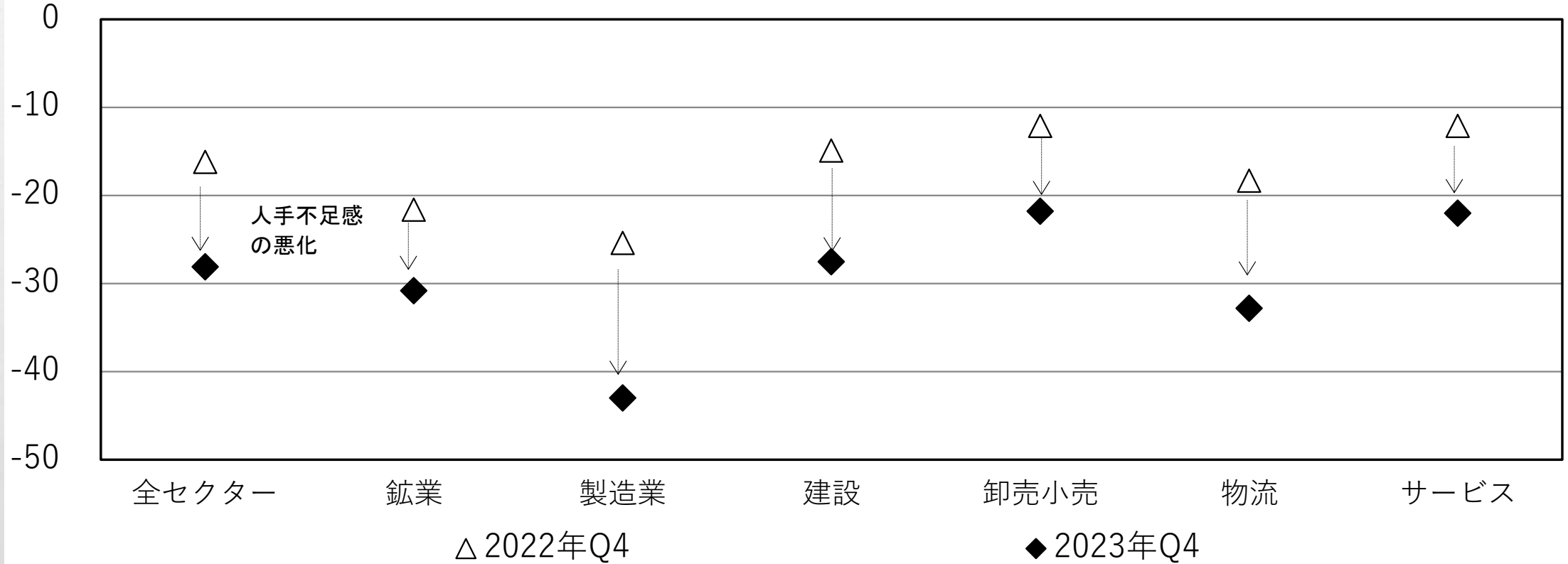


—□— 失業率
 —△— hh 指数 (1つの求人に対する応募数) 【右軸】

備考：露統計庁、ヘッドハンター社より作成。失業率は季節調整後。

企業の従業員数に対する評価

(回答バランス、%)



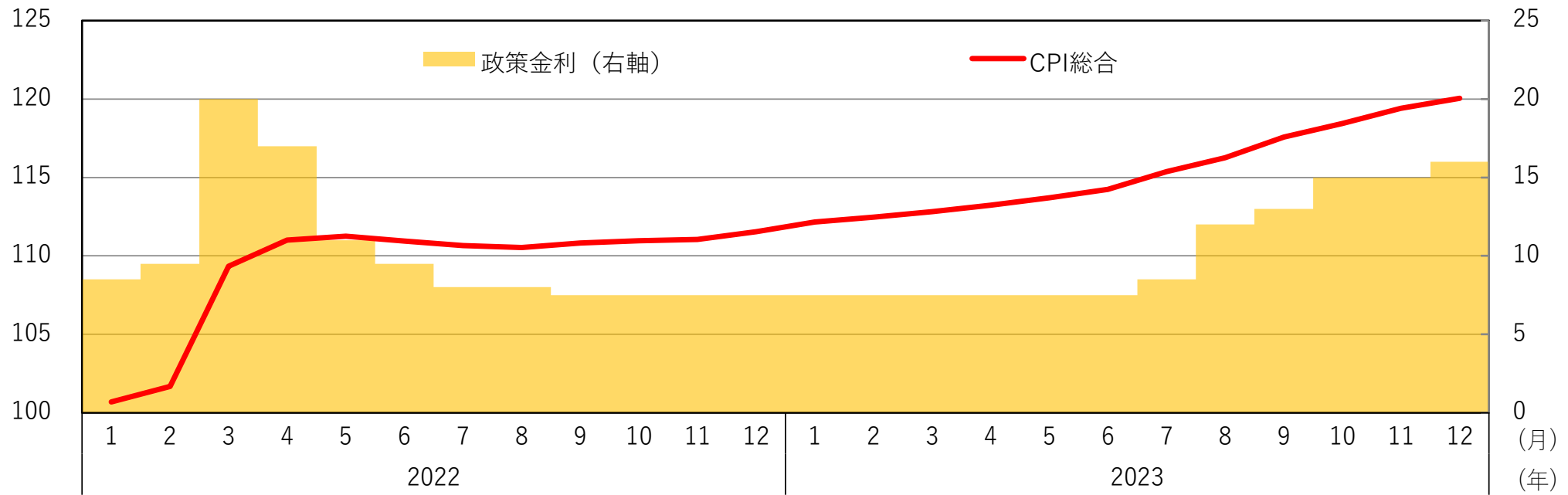
備考：ロシア中央銀行より作成。数値は、報告された当四半期の従業員数についての質問に対する回答について、余剰 (+)、通常 (0)、不足 (-) として回答バランスからDI化したもの (季節調整なし)。

先行きのポイント

- インフレへの対応は政治的にも優先課題。金融引き締めは、長期化する可能性が高く、当面の経済拡大ペースは鈍化。
- 物流、技術、金融の国際的な分断は、潜在的な経済成長の抑制要因。
長期的に新たな投資が生産性の向上につながるかがより重要に。
- マクロ経済安定の支えは資源輸出による経常収支黒字。外部ショックに影響を受けやすい経済構造は変わらず(制裁によってより脆弱に)。原油価格の下落は、経済を縮小させる方向に作用。

(2021年末 = 100)

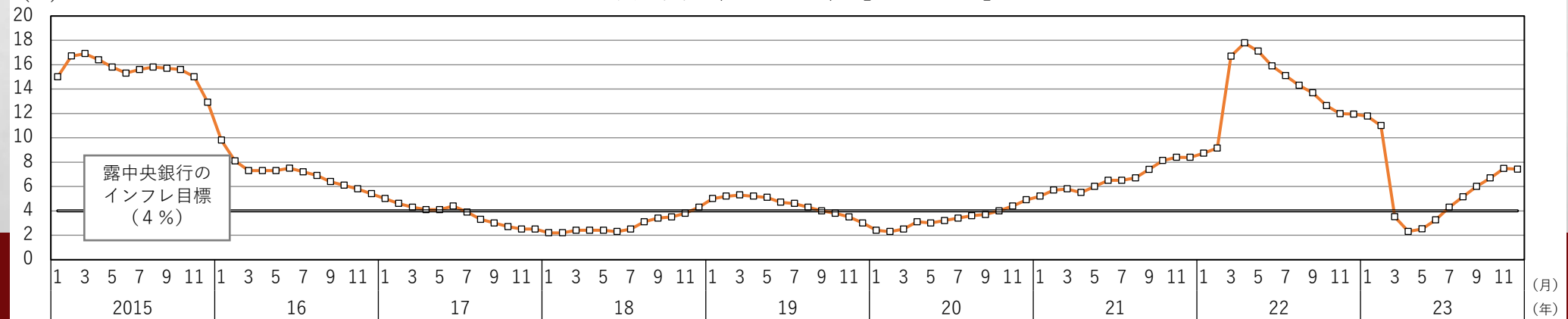
消費者物価指数と政策金利



備考：露中央銀行より作成。CPIは、季節調整値。政策金利は、年率。月末時点の値。

(%)

消費者物価 (前年同月比) 【2015年以降】

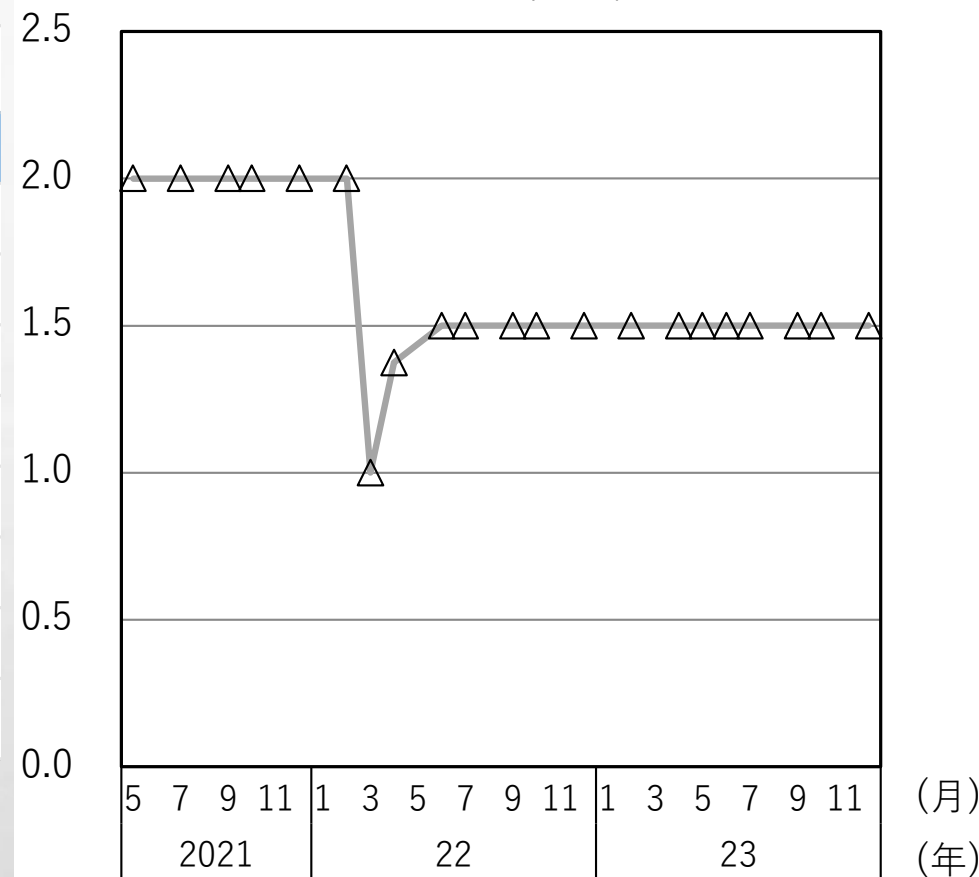


(備考) 露統計庁より作成。値は月末時点。

各機関の実質GDP成長率（%）の見通し

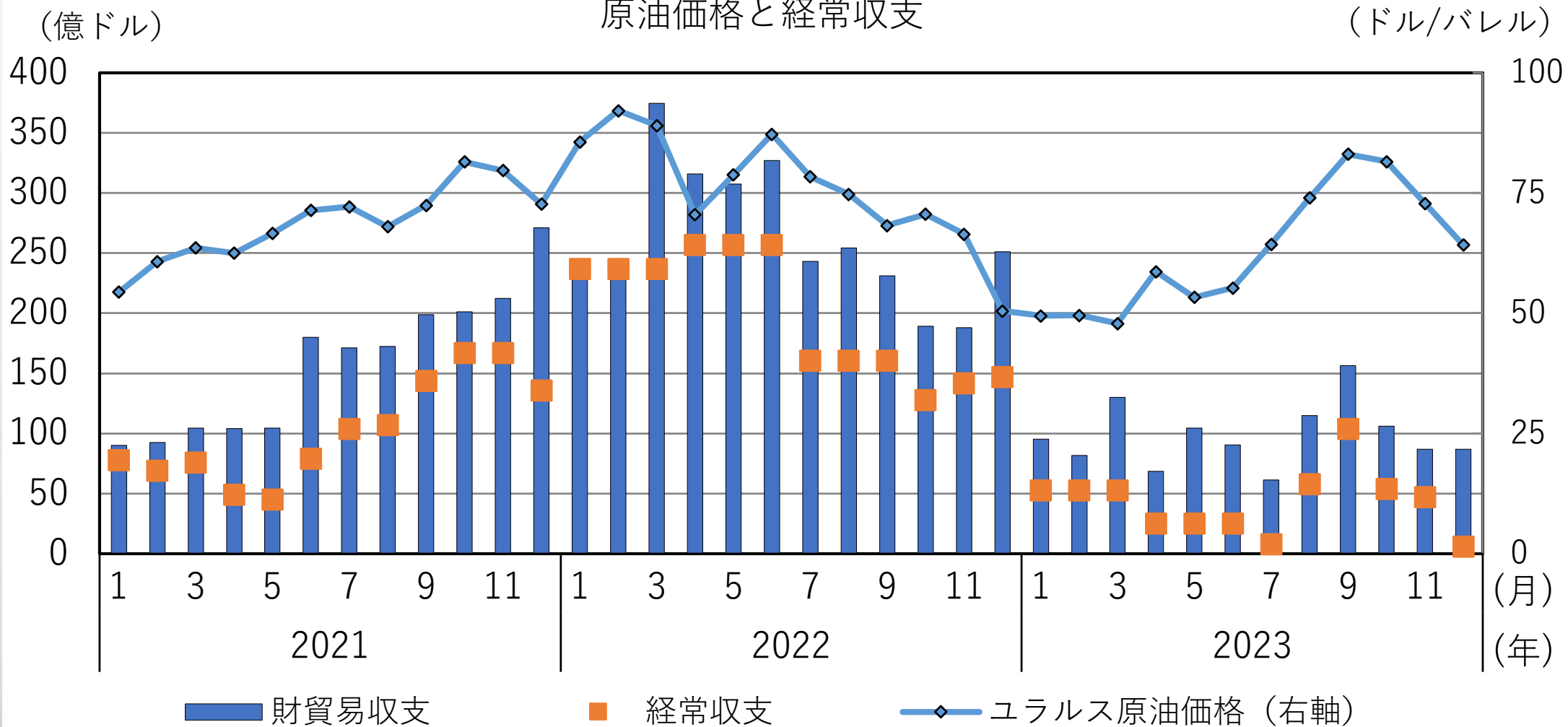
	発表時期	2023年	2024年	2025年
露経済発展省	2023年9月	2.8	2.3	2.2
	2022年9月	-0.8	2.6	-
露中央銀行	2023年10月	2.2~2.7	0.5~1.5	1.0~2.0
	2022年10月	-3.0~0.0	2.5~3.0	-
IMF	2023年10月	2.2	1.1	1.0
	2022年10月	-2.3	1.3	1.0
世界銀行	2023年10月	1.6	1.3	0.9
	2022年10月	-3.6	1.6	-

(%) 民間エコノミスト調査における長期成長率の推移



備考：露中央銀行より作成。横軸は、調査年月。値は、各調査月の民間機関の回答の中央値を記載。

原油価格と経常収支



備考：露中央銀行、露財務省より作成。月次の経常収支が公表されていない期間は四半期データを各月で等分。財貿易収支は国際収支統計ベース。原油価格はユラルス価格の月平均。

資料の全体及び一部について無断での掲載は禁じる。また、資料及び発言は発表者の見解に基づくものであり所属組織を代表するものではない。